

第90回 まちづくり塾記録

「就活応援！カラーコーディネート」

牧野怜子さん & カラーアナリストの皆さん(街の色彩を考える会)

平成21年12月6日(日)13:30~15:30

就職活動と色のかかわり

就職活動をする時、必ずあるのが面接。面接では企業や担当にどういう印象で自分を売り込んでいくのかが一番重要なポイント。書類選考では、その人の内容や人格まではわからない。面接に行くとき、男性の場合はネクタイやワイシャツ、女性の場合はスーツやインナーを相手が求める人に見える色使いにすることが大切。色は全てメッセージ性を持っているので、そのメッセージを自分の色調に合わせて選んでいく。職種も色々あり、職種によって相手の企業が求める人材は違う。サービス業は元気でハツラツとしていて、たくさん色々な物を売ってくれる人がいいとか、やっぱり説得力のある人がいいとか。事務系は落ち着いていて、事務をこなしてくれる人がいいとか。工場系はバリバリ働いて工場のラインにどんどん乗せてくれる人がいいとか、相手の企業目線に立って活動をするという方向に行くのではないかと思う。

カラーを就職活動に生かすメリット

“就職活動で使う色は？”という目立つ色、流行っている色と考えがちだが、街の色彩を考える会ではシャツ、ネクタイ、スーツの色が基準ではなく、その人の持っている肌の色、目の色、これが基準になり、その人を輝かせる色が一番大事ということを基本的な考えとして持っている。人は五感のうち87%を視覚に頼って生きており、その視覚の80%が色に頼って生活をしている。物があると理解すると次に色が入って、その次に形が入って、自分の意識で何であるかを認識する。自分自身に合う色を提案するようになると相手には好印象を与えるし、自分にあう色を知ると自信が出てくる。すると笑顔が良くなるので第一印象が更に良くなる。

色によってどう変わるかモデルにドレープ(色布)を当てて印象の違いを見ていく。



実際にドレープと呼ばれる布を顔の近くに置き、顔映りが良い色を選んでいく。あごやほうれい線の辺りを見ていると影ができた。頬の色がピンクになったりと色により顔つきが違って見える。



ドレープ

この後、参加者の皆さんの面接に合う色をカラーアナリストの方が個別で診断をしました。